

人むすびの場

第28回テーマ

“シティセールスプロモーション”
～三浦市を事例にして～

日時	平成22年10月20日(水) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「シティセールスプロモーション」
～三浦市を事例にして～
若澤 美義さん(わかざわ みよしさん)
(三浦市経済振興部長 兼 ロケコーディネーター)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(うさぎ)



「シティセールスプロモーション」

～三浦市を事例にして～

ゲスト 若澤 美義さん(わかざわ みよしさん)

(三浦市経済振興部長 兼 ロケコーディネーター)

- 三浦は、古くから農業・漁業・観光を基幹産業として成り立っています。農業では、大根・キャベツ・すいか・メロンなどの産地となっています。水産業では、かつてはマグロの水揚げ日本一を誇る遠洋漁業の基地でしたが、マグロ業界も難しくなっています。観光入込客数も昭和40年代の763万人から平成20年には526万人に落ち込み、財政力指数では、神奈川県内の市の中で、最下位となっています。
- 平成12年に地方分権一括法が施行され、翌年から第4次総合計画を策定するにあたり、「地域経済の衰退 + 定住意識の低下 + 一体感の喪失」という3つの危惧を克服するため、行政革命戦略5つの宣言を行い、行政の体質を変える行政革命を断行しました。行政革命戦略5つの宣言は、①財政戦略(身の丈メリハリ宣言!)、②人財戦略(実力派仕事人宣言!)、③情報戦略(まるはだか宣言!)、④組織戦略(庁内分権宣言)、⑤サービス・事業戦略(協働のまち宣言!)
- 三浦市の三大資源「人・まち・自然」に着目、市役所は、管理の論理から経営の論理へ転換。もてなし政策の柱として、「みうらシティセールスプロモーション」を専門的に行う実戦部隊をつくり、地域全体をブランド化することに挑戦しました。
- 「株式会社 三浦市」は、職員は365日営業しています。東京から近いにもかかわらず、手付かずの自然や昭和のまちなみが残る周囲

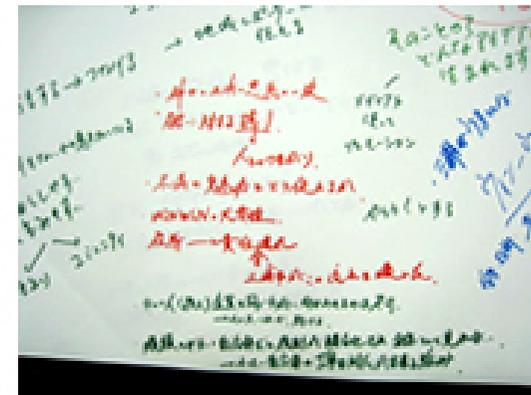
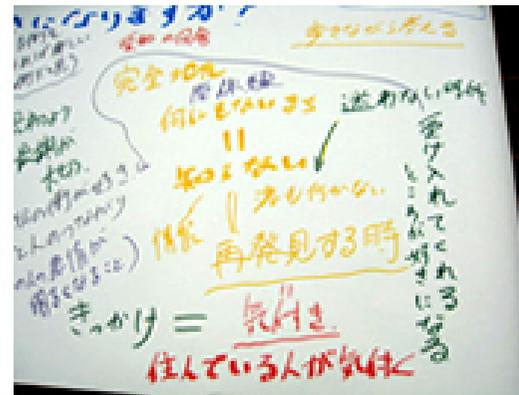
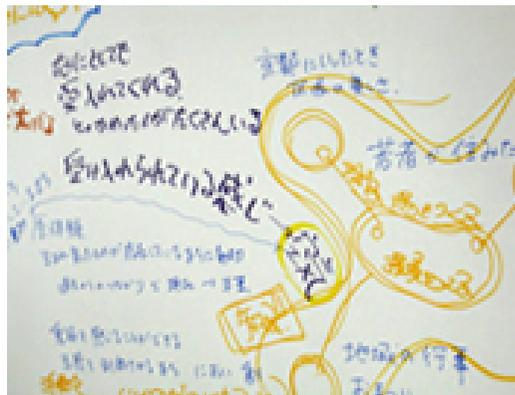
遅れのトップランナーとして、まち自体をコンテンツとしてセールスしています。2009年には、優秀観光地づくり賞もいただきました。

- 【事例1】三浦市東京支店／なごみま鮮果は、産学連携(明治大学)と地域連携(千代田区神田)の首都圏に向けたシティセールスの拠点。平成18年に開設し、運営を明治大学の商学部のゼミ学生さんがアンテナショップの運営や地域交流イベントなどを行い、明治大学と三浦市とのWIN-WINの関係構築。来客数28,455人、取材が61社。視察79組。番組出演5回。イベント出展79回。
- 【事例2】誘客企画営業事業は、全国旅行エージェントへ企画持込と商品化を図り、修学旅行などを誘致するシティセールスを行っています。自然や食などの地域資源を活かした体験メニューを用意し、81本の旅行が商品化され、推定消費額は、約7300万円。
- 【事例3】サッカーJリーグとの協働では、横浜FC、川崎フロンターレと三浦市が協働し、チケットを売ると同時に三浦ファンを獲得し、地域密着をテーマにみうら物産展を開催。横浜ベイスターズとの協働も行い、PR機会を活かし三浦ファンを増やしています。
- 【事例4】映像製作支援(フィルムコミッション)では、新しい地域ビジネスを目指すNPO法人「みうら映画舎」との官民協働事業を行っています。月間12～15本の映画製作、年間の邦画の10%にコミットして、ロケの聖地／ロケ銀座と言われるほど、フィルムコミッション界の異端児的存在として、ビジネスで収益もあげ、地域活性化に貢献しています。間接的CM効果は、21億8200万円。(平成21年度)
- 【事例5】新しいイベントおこしでは、地域密着型イベントへシフトする業界との協働による「ロックの学園」が三浦で学園祭のようなロックフェスを繰り広げ、ロックの素晴らしさ、そして「ロックの魂」を次世代に伝えていきます。
- 【事例6】昭和をイメージする風情のある倉づくりの建築物や看板などをライトアップして、シャッター通りの商店街で夜市をしています。

- 事業の成功に向けては、①三浦市行革命の実践により、前例踏襲主義・事なかれ主義・セクト主義を排除すること、②地域のコンテンツ(資源)の開発、③関係する人や企業とのあらゆるつながりを大事にすることだ、と考えています。

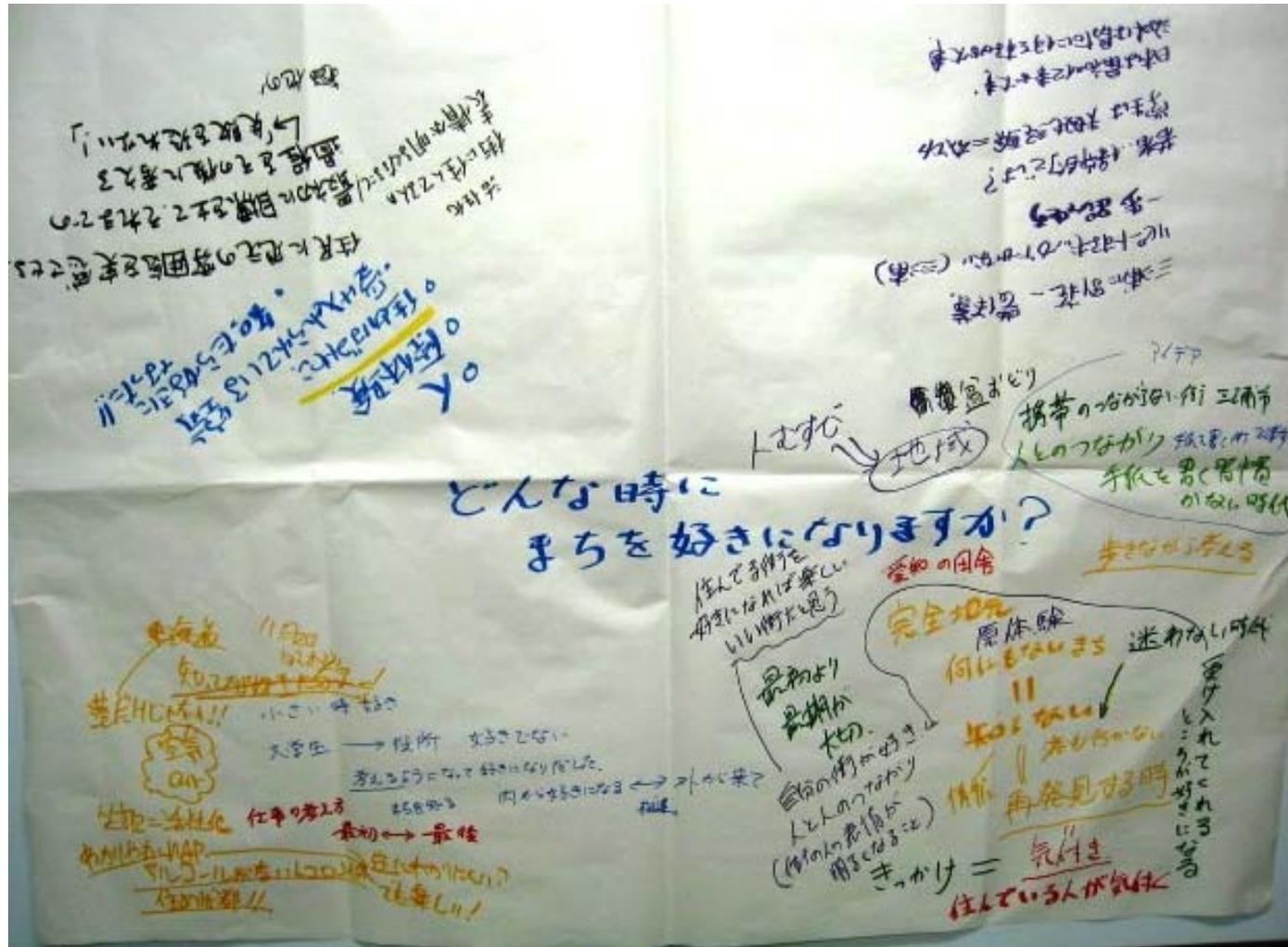


人むすびカフェ



人むすびカフェ

「人はどんな時にまちを好きになりますか？
そのことからどんなアイデアが生まれますか？」



人むすびカフェ

「人はどんな時にまちを好きになりますか？
そのことからどんなアイデアが生まれますか？」



人むすびカフェ

「人はどんな時にまちを好きになりますか？
そのことからどんなアイデアが生まれますか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・先ず、一歩踏み出すこと
- ・いろんな年齢層、男女が集う会合で、意見が一致することがあるのか??と思ったが、意外と共通の意見があったことに感動した。
- ・みんな感じていることはあまりちがわない、共有できる
- ・人を受け入れる雰囲気的大事だと感じた。新たな視点で物事を見る感性が大切
- ・自分の住んでいる街を好きになると幸せになる
- ・役所からはじまること はじめられることがたくさんある！！
- ・自分の気付かなかった意見や自分でも気付いていたが、言葉に出来ないあいまいな部分を明確化できる事があって良かった。
- ・街も人のやる気次第で変わる。
- ・「民意」という言葉の曖昧さ
- ・だれもが良く考えている
- ・改めて思ったこと「各々のまちの規模、成り立ちによって、各々のまちのやり方で活性化していくことがベスト
- ・町との対話の必要性
- ・歩く → まちの良さがわかる 歩くことで発見することがたくさんある
- ・活性化させる＝住んでいる人の表情を明るくすること
- ・自分の知らない町さがしの仕方があった。
- ・革命を起こすほどのやる気が大事
- ・まちのマイナスからのスタート、それを強みにする。地域に暮らす人が行う地域プロモーションこそ！
- ・三浦市の役所の考え方はとても進んでいると思いました。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・先ず、一歩踏み出すこと
- ・アルコールがない所以外、住めば都
- ・「受け入れてくれる空気」「まちをよく知れば好きになる」
- ・住めば都 知るという再発見
- ・気づきの大切さ
- ・そんなことはどうでも良い。
- ・発想の転換
- ・街がどのように転がってみても、受け入れないことはない。
- ・民意とは
- ・歩く＝町を知る 町を好きになる 今まで気付かなかったことに気付く。
- ・歩く つながり
- ・町全体がステージ 一過性のイベントではない祭り
- ・歩く 住民が自分の街を好きになる
- ・歩く
- ・まちを好きになるには見て、感じる＝ミカンが大事
- ・原体験、経験がまちを見る目をつくる
- ・暮らしやすい

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・考えながら生活すればまちが見えてくる。
- ・このような集会には初めて参加させて頂きましたが、非常に良い刺激がもらえました。今後もよろしくお願い致します。
- ・せっかく話し合ったこと、なにかアウトプットにつなげればいいのだが・・・
- ・人むすびと講演テーマの関連性がみえないのでみえるとよいかも！
- ・三浦市のゴールはどこですか？
- ・大人の方とこのようなワークショップを体験できる事はないので良かったです。
- ・自分の街についてもっとみんなの意見を聞いてみたかった。
- ・若者のお話がよかった。
- ・異業種ながら想いのある方々と知り合えたこと。時間が少し不足かな？
- ・いろいろな人がいて知見が深められた。
- ・いつもより今日は本当に時間が足りなかった。若い人たちが多かったせいかな。
- ・今まであまり接点ないような大人の様々な方面からの意見がきけたので、とても参考になったと思う
- ・歩いて知ってみることの良さというか素晴らしさ、地域の魅力の発見ができることが改めてよくわかった。自分の町を歩こうと思った。
- ・みんな生まれたところ、住んでいるまちが好きなんだ～
そのコミュニティや生きとし生けるものすべてを好きなんだ、と感じた。
- ・勉強しているふんいきがもう少しなくてカフェみたいだといいな。
- ・ワールドカフェで多くの意見が聞けた。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。